

特集

自然と遺跡の環境保全

三沢遺跡の森を育む会の挑戦

九州歴史資料館周辺に広がる三沢遺跡の森は、小郡市内でも数少ない豊かな自然が残る場所です。
なだらかな丘や小さな谷が織りなす景観の中で、多くの動植物が生息しています。

●西鉄三国が丘駅

●光田堤

みづがうら
●蓬ヶ浦堤

●小郡高校

☎ 閩文化財課文化財グループ
75・7555

●影堤

●九州歴史資料館

西鉄三国が丘駅から九州歴史資料館
に向かって三沢遺跡の森の中の歩道を進むと、標高30〜40メートルほどのなだらかな丘が続きます。小さな谷も入り組む自然豊かな森では、鳥や虫の声が聞こえてきます。

しかし、この豊かな自然も、かつて消滅の危機にさらされた時期がありました。昭和40年代の初め頃から始まった九州縦貫自動車道の建設に伴い、土取り場として森の一部が削られる計画が進められました。工事に先立ち実施された確認調査では多くの土器や竪穴住居跡が発見され、発掘調査の結果、4つの丘の尾根に、今から約2,200年前の弥生時代前期から中期にかけてのムラが築かれていたことが判明しました。このムラからは、竪穴住居や貯蔵穴がセツトで発見されており、当時の人々の暮らしを知ることができる貴重な遺跡であることが分かりました。

その歴史的価値が評価され、昭和53年に県指定史跡「三沢遺跡」となり、現在まで大切に保存されています。

三沢遺跡の森を育む会

平成22年に九州歴史資料館が小郡市に移転した頃、県からの依頼を受け、平成23年から2か年にわたってこの森の植物や動物などの自然環境について調査を行った団体がありました。こうした活動などをきっかけに発足したのが「三沢遺跡の森を育む会」です。

活動は、丘陵の谷間にある野草園を中心に行っています。年間を通じて周辺の草刈りや草木の手入れを行うほか、三沢遺跡の森を会場に年4回のイベントを開催するなど、自然に親しむ機会づくりにも取り組んでいます。

活動について、副理事長の田島さんは「市内でも数少ない自然環境を保全し、そこに生息する動植物が豊かになることで、人にとっても暮らしやすい森にしていきたいことが目標です」と話します。



左が副理事長の田島さん、
右が理事長の中山さん

自然と歴史をつなぐ野草園

野草園は、三沢遺跡の森の中にある丘陵の谷間の小郡市遊休地を活用してできた場所で、平成30年度市民提案型協働事業により整備されました。土を運んで盛り土を行い遺跡を保護するとともに、散策路に沿って小川に見立てた溝が掘られています。その傍らには四季折々の草木が植えられ、さらにそれらを囲むように伊吉櫓いきはしほが植樹されています。

また、遺跡の価値を伝える活動として、弥生時代に谷筋で水田が営まれていたことにちなみ、古代米の田植えや稲刈りを体験できる水田も整備されました。

豊かな自然環境が維持されている野草園では、花の蜜を求めてクロアゲハが飛んできたり、カブトムシがいたり、昆虫も多数生息しています。

会では、今後も四季折々の自然を楽しむ空間づくりを続けるということで、「ゆくゆくは散策路を整備し、より豊かな公園にしていきたい」と理事長の中山さんは話していました。

員募集

「できる時に得意なことで活動しよう」を合言葉に毎月活動しています。
一緒に活動していただける人や活動に興味がある人は、お問い合わせください。

問 NPO法人三沢遺跡の森を育む会(田島) ☎090-9579-9767



花にとまるクロアゲハ



野草園



水田



こんな活動をしています

● 山野草の観察会

4月下旬頃と10月下旬～11月中旬の年2回、植物の専門家と一緒に三沢遺跡の森を散策します。季節ごとに咲く草花や木々の魅力を楽しめます。

イベントのご案内 「秋の樹木と山野草を楽しむ会」

日時 11月8日(日) 9時～正午
会場 九州歴史資料館周辺
定員 30人(先着順)
参加費 無料
申込方法 Eメールで①氏名②年齢③住所④郵便番号⑤電話番号をお知らせください。
申込締切 10月30日(金)
申問 NPO法人三沢の森を育む会(田島)
mitsusawa.iseki2@gmail.com

● 生き物探検隊

7月の最終日曜日頃に開催。小学生を対象に三沢遺跡の森にすむ生き物を探して採集したり、草木を観察したりします。散策の後には九州歴史資料館で学習会も実施。運が良ければ、カブトムシを採集できるかも？



● はぜろうキャンドル作り

12月頃に開催。九州歴史資料館で学習会をした後、櫨蝋を使ったキャンドル作りに挑戦します。時には、野草園の伊吉櫨を見学することも。



伊吉櫨の保存・継承

江戸時代、久留米藩では櫨が特産品であり、その原料となる櫨が藩内各地で栽培されていました。小郡でも櫨製品(はぜろう)の生産・販売が行われ、大いに栄えました。江戸時代中頃には、小郡村の内山伊吉が櫨の品種改良に取り組み、毎年多くの実が収穫できる優良品種を生み出しました。その櫨は「伊吉櫨」と呼ばれています。

ではその姿はほとんど見られなくなりしました。会では、この貴重な伊吉櫨を復活させ、後世へ受け継ぐための活動に取り組んでいます。櫨の実の種から発芽させた苗木を育て、さらに接ぎ木を行って大きく育った木を野草園へ植樹しています。現在では実をたわわに付ける木も増え「櫨の道」ができるなど、伊吉櫨の保存・継承が進められています。

また、伊吉櫨の魅力を発信する取組として、会では毎年冬に「はぜろうキャンドル作り」を開催しています。遺跡や自然環境を守り続けるには、多くの時間と労力が必要です。それにもかかわらず、会では遺跡の価値を損なうことなく、豊かな自然を生かした体験学習や伊吉櫨の保存活動、地域の歴史を次世代へ伝える活動に取り組んでいます。

三沢遺跡の森を未来へ

自然と歴史は地域の大切な財産です。三沢遺跡の森を育む会の活動は、この貴重な地域の財産を未来へ受け継ぐ大切な役割を果たしています。

